



多様な学びの形の必要性などを語る成毛侑瑠樺さん

地域全体で不登校への理解を深めようと、小林市の高校生でつくる団体「絆を結ぶ物語楽園」は13日、小中学校で不登校や別室登校を経験した広島県立観音大3年の成毛侑瑠樺さん(23)が、小林市のTENAMU交流スペースで開いた。成毛さんは、登校を促されることに「『い』あるべ



「多様な学びの形必要」

不登校へ理解深める講演 小

藤が「に当てはまれない葛藤があり、そこから『こうあるべきだ』という価値尺度に疑問を持った」と述べた。高校進学後から「子どもが理不尽に否定されない学校を作りたい」と考え、講演やワークショップなどを始めたとした。

不登校については「システムに当てはまらない子どもの問題として見ている。先生たちも構造的な問題に悩んでおり、学校復帰にとらわれない、多様な学びの形が必要」と指摘。また、「不登校の子どもの居場所づくりと、『い』という場所

がある」と伝えるアクションが大事」と訴えた。感して寄り添うことが大切だと感じた」と話している。池田美紅さん(17)は「自分た。(成田和美)